話題読選

わだいどくせん

「移動する人はうまくいく」（長倉顕太著）

淡々と初めての体験重ねる

「移動する人はうまくいく」（すばる舎）は、ありがちな自己啓発書とはひと味違う。東日本大震災をきっかけに出版社を辞めて独立し、米ハワイやサンフランシスコに拠点を移して活動する、編集者の実体験が基になっている。

著者が伝えることはシンプルだ。多くの人が人生を変えたいと思っても変えられないのは、意志の力で変えようとするから。やる気だけではよほど意志が強くなければ、行動に移すことはできないと説く。行動を変えるには環境を変えること、つまり違った環境に身を置くことで行動が変わると、繰り返し述べる。

著者によると、移動は未知の何かに出合う旅。引っ越しや旅行、留学、転職、多拠点生活といったあらゆる手段で「定住」「安定」から脱却する考え方を薦める。やりたいことを探すのではなく、淡々と体験を重ねて出合うことが大事だという話には説得力がある。

2019年4月に「移動力」を刊行したが、コロナ禍を経て24年4月に加筆、再編集して刊行。25年1月時点で11回増刷し、発行部数は計11万部に達した。

担当編集者は想定以上の売れ行きの背景に、トランプ米大統領の就任や、与党が少数となった国会情勢など世の中の変化があると指摘。「多くの人々が不安を感じ、何かしなくてはと思っていることが表れているのではないか」と分析する。「私も実践しています」という読者の声が多く寄せられているそうだ。

（由）